

A. 第三者評価結果（「機関評価」の部分）

評価スケール	自己評価	機関評価	評価スケール	自己評価	機関評価	評価スケール	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.4	A	A	6.1.3	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.1	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.2	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	A	A	6.2.3	A	A
1.2.1	A	A	2.3.8	A	A	6.2.4	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.5	A	A
1.3.1	A	A	2.3.10	A	A	6.2.6	A	A
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A
1.3.3	A	A	2.4.1	A	A	6.2.8	A	A
1.4.1	A	A	2.4.2	A	A	6.2.9	A	A
1.4.2	A	A	2.4.3	A	A	6.3.1	A	A
1.4.3	A	A	2.4.4	A	A	6.3.2	A	A
1.4.4	A	A	2.4.5	A	A	6.3.3	A	A
1.4.5	A	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.1	A	A	7.1.2	A	A
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A
1.4.8	A	A	3.1.3	A	A	7.3.1	A	A
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A
1.5.2	A	A	3.1.5	非	非	7.3.3	A	A
1.5.3	A	A	3.1.6	A	A	7.3.4	A	A
2.1.1	A	A	3.1.7	A	A	7.4.1	A	A
2.1.2	A	A	4.1.1	A	A	7.4.2	A	A
2.2.1	A	A	4.1.2	A	A	7.4.3	A	A
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	A	A
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	A	A
2.2.5	A	A	4.2.2	A	A	7.5.2	A	A
2.2.6	A	A	5.1.1	A	A	7.5.3	A	A
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	A	A
2.2.8	A	A	5.2.1	A	A	7.5.5	A	A
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	A	A
2.2.10	A	A	5.2.3	A	A	7.5.7	A	A
2.2.11	A	A	5.2.4	A	A	7.6.1	A	A
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A
2.3.2	B	B	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A
2.3.3	A	A	6.1.2	A	A			

B. 評価機関の所見

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール番号	内 容
1-2-1	毎月、予算に対する実績を各部門で出して管理しています。予実管理を行うことで、より迅速に改善が図れています。半期の振り返りでは昨年度の同時期と比較すると増収しており、結果の分析も行っています。今年度、入居金の見直しを行い改定しています。居室の面積比率に合わせて金額改定を行った結果、契約につながり収入増につながりました。現状を分析しながら必要な改善を実践していることで、安定した経営を展開するよう取り

	組んでいます。
1-4-1	当ホームでは職階ごとに「研修計画と実績表」を作成しています。職歴、研修歴、求められる役割について記載されており、これらに照らし合わせてパート職員を含む全職員対して、個別の育成計画を作成しています。これまでの研修受講実績を把握し、職員から資格取得等についても意向を確認し育成計画に落とし込んでいます。今年度からは、より育成という視点が強化され、「取ってほしい資格」についても記載されています。自身が望む資格取得や知識の習得に励むとともに、組織として求める職員像に照らし合わせて、その人自身に身に付けてほしいスキルを明確に示す事は、職員にとって求められていることが分かりやすく、また、後押ししてもらえる環境があることは、組織に対する帰属意識も高まる効果も期待できます。
1-4-5	毎年1回、自己申告書の提出にて職員の意向を確認しています。退職の予定、研修の希望など意向把握のほか、「仕事に対する評価」として、難しさ、仕事量、適正、能力となった、健康面、総合評価を記載する項目があり、自分自身の振り返りも行うことができる書式となっています。振り返りを通して次年度に向けて自分の意向を表明することは双方にとって客観的に現状を捉える良い機会となっています。
2-3-3	ホームでは積極的に社会貢献に取り組むことは、サービスの質向上につながることを捉え、行政や関係機関と協同し、様々な事業に取り組んでいます。「認知症予防について検証しよう」と企業が集まり、暮らしのワーキングという新規ビジネスの立ち上げにも協力しています。入居者から希望を募り、血液検査や歩行距離に関するデータを取り、効果測定から認知症予防につなげるなどのほか、地域包括支援センターとも情報交換しながら、認知症への理解が進むよう取り組んでいます。その他、警察署の協力と得て、高齢者の運転教室も開催しています。様々な取り組みに参画しながら、この取り組みが入居者へのサービスの質向上につながるよう注力しています。
2-3-5	認知症理解に関する取り組みは、事業計画にも盛り込み、今年度重点的に取り組んでいます。入居者懇談会でも取り上げて説明しています。その中で「ファイブ・コグ検査」についても説明しています。この検査は、集団認知機能検査で、脳の機能の記憶・注意・言語・視空間認知・思考の5つの機能を測る検査で、その結果から、自分の脳の機能の状態を知ることができます。入居者や家族にどのような主旨で何を行うのか、理解を得た中で進めています。
4-2-2	ホームでは年間を通じて各種行事を企画しており、季節を感じながら入居者に楽しんでいただけるよう取り組んでいます。行事に関するアンケートも行い、その中の要望から、バスツアーも実施しました。また、地元の方々との交流にも力を入れており、宇治福祉祭りには屋台を出店し、おでん販売を行い、ホームの存在をアピールしています。今後の企画としては、地元の野菜をホーム内で販売に来ていただいていることから、地域の方にも呼びかけて、食堂で筍パーティーを行う予定です。京都ならではの行事も取り入れながら、地域の方々とも触れ合える機会も設け、地域の中の一人として入居者の生活がより豊かなものになるよう、職員は趣向を凝らし取り組んでいます。

2. さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケール番号	内 容
6-1-1	ケアプランは入居者・家族の意向を把握し、アセスメントをもとに作成しています。ケアプランに対するモニタリングは半年に1回実施し、サービス担当者会議は多職種で構成され入居者や家族の希望等を踏まえた中で検討しています。しかしながら、ケアプランの短期目標に対するサービス内容は大きく捉えており、また、様々な項目が挙げられていますが、サービス内容について入居者がどのように取り組み、現状がどうであるかを確認できる日々の記録については運動性が薄く、十分な記録量とは言えない状態です。日々の記録は入居者の状態を検証し、ケアプランの見直しやケース会議における検討時には大切な材料となるものです。モニタリングについても、短期目標のどのサービス内容の部分が達成されていて、どのサービス内容についてはまだ未達成なのか等、具体的な記載への工夫が必要となります。ケアプランに沿って取り組んでいる内容に連動した記録を重ねていくことにより、少しの変化でも捉えることができ、入居者だけではなくケアにあたる職員にとっても分かりやすい成果として実感できると推察されます。また、入居者が取り組んだ達成度合い、取り組んでいる際の入居者の様子(エピソード)を記録で積み重ねていくことで、入居者の「実現可能な目標」に対する気づきを共有できると推察されます。入居者の状況をより把握しやすくなるよう記録の連動性、重要性等について改めて検討し取り組むことが期待されます。
6-2-1	
6-2-2	
6-2-3	
7-5-5	機能訓練指導員による個別の機能訓練を実施しています。計画書には、短期目標、訓練内容が示され、3ヶ月ごとにその評価を行っています。訓練内容に沿って実施されていますが、記載内容は、実施したか、していないかに留まっている場合が多く、その時の入居者がどのように取り組んでいたのか、のちに評価する際の参考となる記載内容というには、改善の余地があります。記載内容の充実について検討することが期待されます。